

## iPS 細胞を用いた神経科学研究

### Translational neuroscience using iPSC technology

- 講師：井上 治久 先生 [京都大学 iPS 細胞研究所 幹細胞医学分野・教授]
- 日時：平成27年4月15日（水）17:30～
- 場所：医学教育図書棟3階 第2講義室

\*Lecturer: Prof. Haruhisa Inoue

[Center for iPS Cell Research and Application Kyoto University]

\*Date & Place: April 15<sup>th</sup> (WED) from 17:30

@ Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.

20世紀初頭、神経解剖学の権威、Santiago Ramón y Cajal 博士によって「成体哺乳類の中樞神経系は損傷を受けると二度と再生しない」というドグマが提唱された。実際に、神経系は他臓器のように生検を行うことは困難である。そのため、これまでは生体に対する画像解析に加えて、剖検標本や疾患モデル動物等を用いた解析が中心に行われてきた。しかしモデル動物で有効とされた薬剤でもヒトでの有効性があるわけではなかった。

2007年、ヒトの人工性多能性幹細胞(induced pluripotent stem cell: iPS細胞)が誕生した。患者 iPS細胞から、神経細胞に分化誘導することにより、患者の遺伝的背景を保持したままの生きた神経系細胞を大量に解析できるようになった。このブレイクスルーのもとで、神経疾患についても新たな知見が次々と集積しつつある。

本講演では、我々の研究結果を含め、iPS細胞を用いた神経疾患研究について、お話をさせていただきます。

- 担当：幹細胞誘導学分野 江良教授 / Prof. Era, Department of Cell Modulation
- レポート提出先/Essay (江良教授宛/To Prof. Era) : [tera@kumamoto-u.ac.jp](mailto:tera@kumamoto-u.ac.jp)
- レポート提出先/Essay(CC:医学教務/Student Affairs Sec): [iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)

